

## 1 概要

### (1) 日時、場所

8 月 19 日 (水) 9:30~17:00、8 月 20 日 (木) 9:30~17:00 / 尼崎キャンパス

### (2) テーマ

#### 「深い学び」を実現する教育実践の構築

本学では近年、学生支援型 IR の活用を標榜してきており、その先進的な取り組みは学外からも評価を受けているところである。しかし学生への適応調査をみると、それが必ずしも本学で学んでいることの満足度の高さに十分結びついていないとは言えず、卒業時の調査でも同様のことが指摘できる。今後、大学を巡る様々な困難を考慮した場合、本学においては「強みのさらなる強化」と「弱点の確実な補強」が必要となってくる。

強みの一つは、本学が早くから推進してきているアクティブラーニングである。本学において手法としてのアクティブラーニングは、年々導入率が高まり、何らかのアクティブラーニングを取り入れている科目が 8 割に達することは、本学教育改革調査結果からも裏付けられている。授業アンケート (中間評価) における「自由記述」からも、グループワーク等の手法が、本学学生にマッチし、好評であることが示されている。

ただ、アクティブラーニングを多く経験しながらも、それが高い満足度に結びついていないことは、今後改善していかなければならない「弱み」でもある。「上位層」「下位層」の意識分析を進めるとともに、多様な学生たちがそれぞれ成長を実感できるような創意工夫が求められる。

アクティブラーニングの導入そのものにとどまらず、「設計-運用-評価-実行」(フィードバックやモニタリングを含めた)のプロセスの中に、そのような工夫を効果的に組み込んでいくという視点が必要とされる。中でも「振り返り」の質の向上が不可欠であろう。すなわち、PDCA の C の部分を強化することである。今春から始めた「学期の主題」に基づく科目統合の取り組みの成果をあげていくためにも、学生自身の成長や満足度を高めていくためにも、このプロセスを大切にしていかなければならない。

さらに授業評価アンケートでは、ベンチマークとの関連、その浸透に大きな課題があることも見て取れる。それぞれの科目が、科目固有の教育目標に到達するように指導していくことは当然のこと、学生の 4 年間の到達目標ベンチマークを達成することを意識した教育活動であることが求められている。そのためには、学習への深いアプローチ(「振り返り」「離れた問題に適用する」「仮説を立てる」「原理と結びつける」)を志向し、しっかりとデザインされた戦略性の高いアクティブラーニング型授業を展開する必要がある。

加えて授業内における改善のみならず、本学が力を注いでいる off-campus プログラムを“ハイ・インパクト・プラクティス”にふさわしいレベルに向上させ、学生に on、off を問わず「深い学び」を提供していかなければならない。その中で共通してキーとなるのは、上記にも述べた「設計-運用-評価-実行」といったプロセスの効果的な確立である。教員個人でも大学組織としても意識し、検証し、改善していきたい。

### (3) 到達目標

関西国際大学の組織的教育力をさらに高めていくために、「深い学び」へと誘う戦略的な授業デザインを実践する視点を得る。

- ・ 関西国際大学の教育改革の流れと現状そして課題を理解する。
- ・ ディープ・アクティブラーニングの考え方と方法について理解する。
- ・ 自らの授業について、ディープ・アクティブラーニングの角度から検証を行い、今後のよりよい授業構築への糧を得る。
- ・ 授業展開における「設計—運用—評価」のトータルなデザインの重要性を確認する。
- ・ 「学期の主題」に基づく科目統合の取り組みについて、「設計—運用—評価」のプロセスそれぞれに検討を加え、「深い学び」に導くことのできる実践的な知見を得る。

## 2 プログラム

### ★1日目★

		分	内容	
午前 (9:30-12:00)	開会	10	2日間の趣旨説明及び一日目の内容と目標	
	プログラム①	10	【over view セッション】「関西国際大学 FD に期待されること」(濱名学長)	
	移動	5		
	プログラム② -1 プログラム② -2	60	A	B
			【over view セッション】 「関西国際大学の教育改革の流れ」(山下副学 長)	【over view セッション】 「関西国際大学の教育 改革の課題」(藤木評価 センター長)
	休憩と移動	15		
	プログラム③	30	【report セッション】データにみる不適應学生の状況認識と対応に関する試み(田中重初年次教育部門長)	
プログラム④	20	【over view セッション】「関西国際大学におけるアクティブラーニング」(吉田教育開発部門長)		
午後 (13:00-17:00)	プログラム⑤	90	【on-campus セッション】松下佳代先生講演「ディープ・アクティブラーニングの考え方と方法」	
		10	質疑	
	休憩	10		
	プログラム⑥	40	【on-campus セッション】「授業の中で目指すディープ・アクティブラーニングの試み(実践発表)」(松岡)	
	休憩	10		

	プログラム⑦	70	ディープ・アクティブラーニングを目指した授業改善のワーク（高等教育研究開発センター）
	まとめ	10	本日のまとめ、明日の予告及びアンケート記入

★2日目★

		分	内容
午前 (9:30-12:00)	開会	10	二日目の内容と目標
	プログラム⑧	80	【on-campus セッション】津吹達也先生講演「HIPにおける『設計—運用—評価』～立教大学 BLP の取り組みから～」
		10	質疑
	休憩	10	
	プログラム⑨	40	【on-campus セッション】「学期の主題」に基づく科目統合の取り組みについて① 「これまでの取り組みの経緯と主題定義の確認（午後のプログラムの進め方を含む）」（吉田教育開発部門長）
午後 (13:00-17:00)	プログラム⑩	70	【on-campus セッション】「学期の主題」に基づく科目統合の取り組みについて② 「春学期の取り組み報告」（各学科専攻） （1） 人間心理学科 （2） 経営学科 （3） 教育福祉学科こども学専攻 （4） 教育福祉学科福祉学専攻 （5） 英語教育学科
		10	質疑
	休憩	10	
	プログラム⑪	100	【on-campus セッション】「学期の主題」に基づく科目統合の取り組みについて③ 『「学期の主題」を素材とした授業改善のワーク～『設計—運用—評価』過程の中にアクティブラーニングをどう組み込むか、上位層・中位層・下位層のそれぞれに届くアクティブラーニング～』（高等教育研究開発センター）
		10	「まとめと今後の展望～9月FDへの課題～」（高等教育研究開発センター）
	休憩	10	
		5	参加学生より
	プログラム⑫	15	【reflection】総括（濱名学長）
	まとめ	10	二日間のまとめとアンケート記入

.....

松下 佳代 (まつした かよ) 先生

京都大学高等教育研究開発推進センター教授。京都大学博士 (教育学)。

京都大学大学院教育学研究科博士後期課程単位取得退学。京都大学教育学部助手、群馬大学教育学部助教授、京都大学高等教育教授システム開発センター助教授を経て、2004 年より現職。専門は、教育方法学、大学教育学。とくに能力、学習、評価をテーマに研究と実践を行っている。主な著書に、『パフォーマンス評価』(日本標準、2007)、『〈新しい能力〉は教育を変えるかー学力・リテラシー・コンピテンシー』(ミネルヴァ書房、2010) [編著]、『ディープ・アクティブラーニング』(勁草書房、2015) [編著] など。

津吹 達也 (つぶき たつや) 先生

京都工芸繊維大学 大学戦略推進機構 特任准教授。

2012年、グロービス経営大学院卒業 (MBA)。メーカー海外営業、ベンチャー、IT企業のマーケティングを経て現職。2008年より立教大学にて産学連携プログラム (ビジネスリーダーシッププログラム) の開発と授業を非常勤講師として担当。2014年、BLP Advancedで文部科学省キャリア教育アワード受賞。2014年から現職に伴い、関西へ活動拠点を移す。COCプロジェクト (地域社会連携)、産学連携プログラムの開発、リーダーシップ・アントレプレナーシップ教育がコア担当領域。Blog: <http://ameblo.jp/tatsu124>